

子どもがみんな笑える日まで

保健福祉
委員会

児童虐待防止は妊娠期から

全国で、児童相談所が関わりながら救うことができなかった虐待死が続き、多くの国民が胸を痛めています。

私は9月にさいたま市児童相談所を視察しました。そこで、さいたま市の虐待件数は増加の一途をたどり、年間3000件近いこと、児童相談所の設置基準は人口50万人に1カ所であるものの、人口130万人の本市には1カ所しかないこと、児童福祉司ひとりあたりの相談件数が全国平均40件にも関わらず本市は80件を超えることもある、という実態が分かりました。また児童福祉司の平均経験年数が3.6年と短く、専門職としての力が十分発揮できていないことも課題です。

私は保健福祉委員会で、虐待で命を落とす子ども

をひとりも出さないという立場で児童虐待問題ととりあげ、児童相談所の増設、児童福祉司の増員と専門職として5～10年の経験を積むことが児童虐待に適切に対応するために必要である、と求めました。

また、子育て支援の在り方として、世田谷区の「世田谷版ネウボラ」を紹介しました。世田谷区には「ひとりの虐待死も出さない」という目標のもと、妊娠期から子どもの就学まで、継続して母親を支えるしくみがあります。私は児童虐待予防事業として真っ先に妊娠期のケアを掲げる姿勢について、本市でも取り入れるべきではないかと提案しました。

今後も、安心して子どもを産み、育てられる環境を整え、虐待をなくすためにとりくみます。



▲保健福祉委員会で「世田谷版ネウボラ」のしくみを示しながら質問
◀世田谷の産後ケアセンターを視察

保育料の無償化 給食費も無料に！

10月から、幼児教育・保育の「無償化」がスタートしました。3～5歳児の保育料が無償になるかわりに、副食費が実費負担となりました。



給食は保育の一環であり、党市議団は本市に対して「副食費も無償にすることを求める申し入れ」をおこないました。

副食費の実費徴収に伴い、8月末に突然、内閣府が公定価格引き下げ案を提示しましたが、国会への説明もなく、多くの自治体や現場の批判を受け、撤回に追い込まれました。撤回は当然ですが、撤回と引き換えに、10月から実施予定だった「栄養管理加算」と「チーム保育推進加算」という2つの処遇改善加算の拡充も見送ったのです。

本市は3月にこれらの加算について保育施設に説明済みだったため、多くの保育施設で10月から加算分を予算化していました。それを奪われたかたちになり、現場は大混乱となっています。私は今後、「栄養管理加算」と「チーム保育推進加算」の拡充を復活することを国にも市にも強く求めていきます。

わーくはびねす農園を視察

わーくはびねす農園を視察（左から4人目）



党市議団に、「わーくはびねす農園さいたま岩槻ファーム」で働く方から声が届きました。「ハウスの中は連日40度超え」「月給11万と聞いたが、保険料を引かれ手取りは7万」「粉塵でマスクが抹茶色になる」などの声です。

この事業はさいたま市も協定を結んでいるため、8月、私は現地を視察しました。株式会社エスプールプラスが運営しており、35棟のハウスで17社それぞれに雇用された障害者105人と35人の農場長が、農作業に従事しています。

障害者の法定雇用率を満たした企業に助成金が出ることに着目した事業であり、主眼が障害者の働く権利に置かれていません。そのため、医療従事者がおらず提携医療機関もない等、課題について保健福祉委員会でとりあげました。

片柳地域 国際興業バス路線の拡充を求めて

片柳地域から天沼町の自治医科大学付属さいたま医療センターに行くためには、新道経由「自治医大医療センター行」が便利ですが、新道経由は朝7時台までしかありません。日中は、天沼町バス停から歩かなければならず、大変不便です。私のもとに「日中も新道経由のバスを1時間に1本程度走らせてもらいたい」「大宮駅から見沼区経由でさいたま市立病院に行けるよう路線を拡充してほしい」という声が寄せられました。そのため、住民といっしょにバス会社（国際興業）と市の交通政策課に要望書を提出しました。実現に向けて粘り強くとりくみます。

本村公園の道路整備が実現

東大宮1丁目本村公園の周辺は、東側以外はU字溝にフタがなく大変危険です。住民から「U字溝にフタをつけてもらえないか」との声が寄せられ、区役所に要望を届け、調査をお願いしました。

その結果、スマイルロード整備事業の対象となり、地元住民のみなさんの多大な努力によって申請書を提出しました。着工までには2～3年を要しますが、完成までしっかり見守っていきます。

